

富岡市長賞 銅賞

明るい未来へ

南中学校 3年 秋山 絢音

部活動が終わり校門を出ると消防車に似た車体で化学車と書かれた車が私の方に向かって走ってきました。どこへ行くのだろうと思いながら眺めていると私達の学校へ入っていきました。驚いて学校へ戻ると救急工作車と上空からはドクターヘリまできました。その後、警察車両が2台、救急車がきて校庭は騒然とした空気が漂いました。これはつい先日の出来事です。

私は今回税について調べて、このような緊急車両の出動のためのお金は税金からでている事を知りました。そして先日の出動だけでどれくらいかかったのだろうと思いました。先日の出動は命に関わるため正当な出動でしたが最近ではタクシー代わり、早くに診察してもらえるからという理由で呼ぶ人達があります。なぜそんな理由で呼んだのかと聞くと若い人を中心とし「税金で救急車が出動しているなら税金を払っている私達は使ったもの勝ち」と答えるのです。もし命の危険がある人が救急車を呼んでもタクシーがわりに呼んだ人のせいで到着が遅れてしまったらどうするのでしょうか。人の命はひとつしかありません。また、これこそが税金の無駄遣いなのではないのでしょうか。

ある時私は公衆電話を使いました。電話ボックスの中に入ると「救急車はタクシーではありません」というステッカーが貼ってありました。その時私はそんな事は当たり前だ、と思っただけでしたが、今思えばタクシーがわりに呼ぶ人がそれほど多いということがわかるのだと思いました。

納税は数少ない国民の義務です。また、税金は日本国民ひとりひとりが払い、それが大きなお金になり、いろいろな所に姿を変えて使われています。けれど一人でもきちんと払わないと、税金をきちんと納めている人が損をし、納めていない人が得をするという理不尽なものへと変わってしまいます。そして、静かに不満が積もり、また未納者が増えてしまうのではないかと思います。

この作文を書くことによって、税金の大切さや問題を知ることができました。私は、税を納めるということは国を支える国民の一人になれるというとても誇らしいことだと思います。だから私が納税者になったらきちんと納めて国を支えていきたいと思っています。